



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2026. 10. 26
第401号 子ども数104名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



「あたりまえ」はあたりまえではない

校長 小森 康貴

昨年の修学旅行で、ほぼ行程が同じ学校が何校もありました。その中のある学校の数名の子どもが、東小の坊主頭の子どもたちとすれ違う際に、何度も「ハゲ」と言ってきました。「ハゲ」と言われた子どもがとても悲しんでいたのも、私は、その学校の校長先生に抗議しました。その後、校長先生が指導してくれたか分かりませんが、それ以降は「ハゲ」とは言われませんでした。

話は変わりますが、私の一番下の子どもは小学校に入学したとき坊主頭でした。しかし、その後、友達に「ハゲ」と言われるので髪の毛を伸ばしました。今では家族で一番の長髪です。長髪にしたことで友達にからかわれることはないようです。しかし、夏休みに家族で旅行に行ったとき、観光施設の男子トイレに入ったら施設の人に「お嬢ちゃんのトイレはこっちじゃないよ」と言われました。

坊主頭をハゲと言う子どもの潜在意識（自覚できない意識）には「坊主頭＝からかってよい」という認識があるのかもしれませんが。そのため、「ハゲ」という言葉が出てくるのだろーと思ひます。これは完全なシンキングエラー（自分の行動を正当化・誤解する間違った考え方）であり、いじめです。しっかりと正していかななくてははいけません。

それでは、長髪の子を女の子と間違えた施設の人はどうでしょう。この人は、悪気はありませんでした。むしろ親切心で声をかけてくれました。ただし、この人の潜在意識には「長髪＝女の子」という認識があります。この認識は当てはまらない場合もあります。

意外と多くの人が間違えた認識をもっていることがあります。例えば、男の子に服を買ってあげるときピンクや花柄を避けるのは、潜在意識の中に「ピンクや花柄は女の子が身に着けるもの」といった認識があるからです。しかし、この認識は間違いです。男の子がピンクや花柄の服を着ても問題ありません。難しいのは、頭では「男の子がピンクや花柄の服を着てもよい」ということは理解していても、潜在意識の中に「ピンクや花柄は女の子が身に着けるもの」という認識があれば違和感をもってしまうことです。潜在意識（自覚できない意識）と顕在意識（自覚できる意識）は違うのです。

自分ではあたりまえだと思っていることでも、それが当てはまらなかったり、間違っていたりする場合があります。それに気づかずに自分の「あたりまえ」を押し付けることによって傷つく人がいます。「あたりまえ」はあたりまえではないのです。「あたりまえ」の押し付けによって傷つく人を減らすためには、今、自分が認識している「あたりまえ」を正しいと決めつけず、常に「あたりまえ」を見直す必要があります。さらに、子どもに対しては、誤った「あたりまえ」を押し付けないことと、子どもの間違えた「あたりまえ」を正していくことが必要です。潜在意識を変えるのは難しいですが、いつも感度を高くして「あたりまえ」を更新していきたいと思ひます。

昨年、一番下の子どもをひまわりクラブに迎えに行ったとき、子どもの友達が私の顔をしばらく見た後に「お父さん？おじいさん？どっち？」と言ひました。その子どもにとっては「白髪＝おじいさん」という認識なのではないでしょうか。それとも、単純におじいさんに見えたのでしょうか。どちらにしても、これからは、おじいさんに間違えられないように努力しようと思ひに誓ひました。